

第13回市川市高齢者虐待防止研修（施設向け）アンケート集計結果

1 印象に残った研修内容

<p>大きな事故は29の軽微な事故と300のヒヤリハットが存在するというハインリッヒの法則、不適切な態度やケアを見逃したり黙認するこが高齢者虐待を発生させる要因となるということなど。</p>
<p>全体を通じて、丁寧な説明で理解しやすかったです、その中で「不適切なケアを改善するシステム」についての講義が最も印象に残りました。</p>
<p>事例を通して、日頃から利用者さんの行動や言動を見逃さず、職員がプロ意識を持つこと、認知症の行動や心理状態の理解や、多職種で連携する必要があること。虐待を見逃さない体制づくりの外部の目として、外部評価委員や法人理事・評議員の活用だけでなく、ボランティアさんの導入も有効であること。</p>
<p>職員のストレスや感情コントロール、ハインリッヒの法則。</p>
<p>高齢者虐待の5つの定義がわかりやすく解説されていた。虐待の内容により一つの定義だけではなく他の定義にも複雑に絡み合い、心理的虐待に繋がるという内容が印象に残った。</p>
<p>介護の記録・事故報告・ヒヤリハット報告・申し送りノート等で現場の気になることを共有しリスクを分析する。</p>
<p>気になることが共有できない施設の問題点として、指摘できない組織風土、相談できない組織風土、責任を追求しすぎると隠蔽に繋がる話が、管理者として必要な内容だった。</p>
<p>講義内容のうち、「不適切なケアを改善するシステム」「虐待を見逃さない体制づくり」の講義内容が印象に残った。</p>
<p>介護について威圧的な態度や命令口調で接しない。プライバシーに配慮せず、スタッフ同士で話題にしたり個人情報扱ったりしない。表情を明るく言葉遣いに気をつけて、ケアについて思いやりがあり、感情を利用者にぶつけない。利用者と適度な距離感を保ち、無関心な態度や冷淡な態度は気をつける。</p>
<p>不適切な介護の説明のなかで「気が付いていない放置」について、本当に自分が死角であったり見過ごし見落とし等がないのかと、考えさせられた。</p>
<p>発生要因に関して、職員のストレスや施設の風土よりも教育や知識不足が半分以上であるという事実がかなり驚いた。</p>
<p>健康維持のため生活の見直しを行い、不快なく生活を送れるよう支援を心がけていますが、改めて重要だと認識しました。</p>
<p>施設でも在宅でも虐待は起こりえる。解決策は共通していると感じた。</p>
<p>気になることを共有し、係内で情報共有し、問題意識を持つことが重要だと感じた。</p>
<p>アセスメントの重要性と情報の共有。</p>
<p>高齢者虐待の発生要因が、教育・知識・介護技術の問題に続いて、職員のストレスや感情コントロールであることに驚いた。</p>
<p>虐待をするつもりがなくても虐待になってしまうこともあることを理解し、職員の指導管理体制を見直していきたい。</p>
<p>虐待に関してはやらないよう普段から意識して仕事に当たっているが、これも虐待にあたるのかと気づく点もありました。</p>

友達のような会話口調は利用者とスタッフの距離感が近いものと感じてしまう事が自事業所でも多く見られる印象にある。仲の良さや相手への敬意の欠如が混在しないような意識を持ち接していく必要があると再認識させられた。

困難な事例について、多方面からアセスメントを行い、他職種連携の下で解決策を見いだす努力が必要である事。

小さなヒヤリハットは、予測していない事案が発生したこともヒヤリハット報告が必要である。気になることの共有が大切であり、小さなヒヤリをデータ収集することで、事前に虐待防止措置ができる。

不適切なケアや、普段使っている何気ない言葉が虐待につながる。

知識を高めることで虐待がなくなるので、ケアの質を向上させ学べる環境を整える必要がある。事例が身近な内容だったので、その後職員同士で話し合いたいと希望があり良かった。

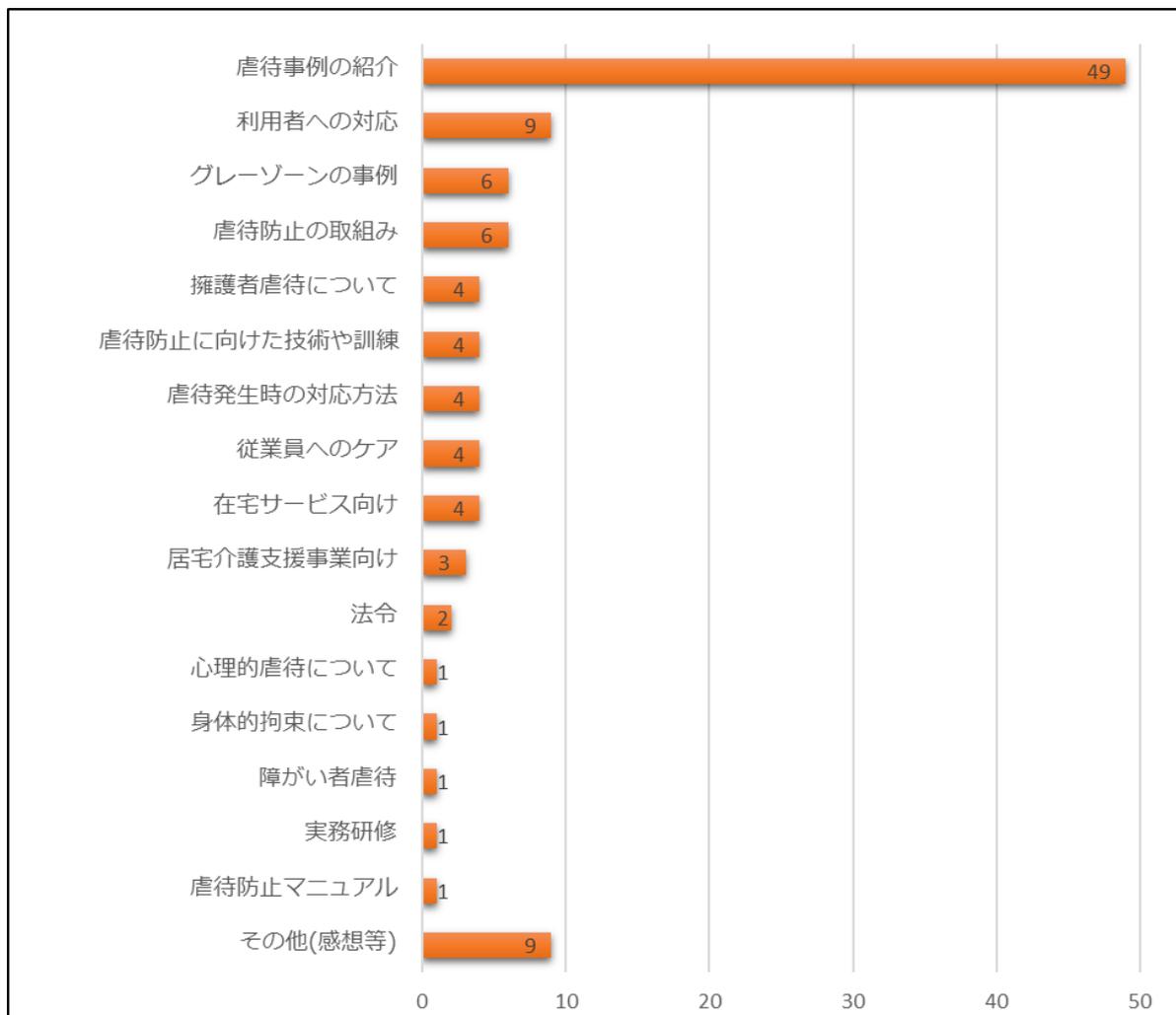
虐待は行ってしまう職員の個人的理由であると思っていたが、組織の関係性であったり等の問題を抱えている場合もあると学ぶことができた。

虐待防止のためには風通しの良い組織であることが重要であるということ。

※これらの内容は、一部抜粋して掲載しております。

2 来年度の虐待防止研修にて取り上げてほしい内容

(アンケートのご回答内容をもとに、大まかに分類分けをしております。)



3 感想等

<p>虐待については、今年の初めに研修を受けさせて頂いていたので少しは分かっていたつもりでしたが、改めて学びなおせてよかったです。しっかりと、虐待は行ってはいけないものと頭に入れて行動しなくてはと考えました。</p>
<p>虐待は、利用者様が思う事で、私はしてない。ではなく、常に隣り合わせなんだと学びました。</p>
<p>虐待をしてしまった介護従事者は、はじめから虐待をしたいと思ってたわけではないと思います。従事者が利用者から暴言や暴行を受けることも多々あると思います。虐待はいけないことと伝えることも大事だとは思いますが、そうならないように介護従事者のメンタルケアや人員を増やす、給料を上げるなど介護従事者に寄り添うことも大事だとも思います。気持ちに余裕が持てない状況でこのような研修をしても内容が入ってこないのではないかととも思います。</p>
<p>虐待行為と思っていなくても、気付かない内に、そのような状況に近い場面は無きにしも非ずだと思います。スタッフ全体が同じ意識を持つ事が大切だと思いました。</p>
<p>近頃のニュースで高齢者施設の急な閉鎖や粗末な食事の提供などが取り上げられていました。当施設のご利用者様のご家族が不安に思われないう、気軽に面会に来ていただけるような開放的な施設づくりを目指しています。開放的な施設でありますと、職員の気も引き締まり、第三者からの目があることでご利用者様一人一人に親身になって対応をしてくれているように感じています。</p>
<p>繰り返し、毎年聴講することが大切だと感じています。 これからもよろしくお願いいたします。</p>
<p>今回の70分はちょっと長かった。40分程度が良い。</p>
<p>私の言葉づかい・介護の仕方でも利用者様に対して嫌な思いをさせていないか、再度自分の仕事を見つめる良い機会を頂きありがとうございました。</p>
<p>小規模事業所だと自前の研修開催は難しいです。虐待防止研修は受講が義務付けられたと同様なので、行政機関からの研修機会の創出はありがたい取り組みだと思いました。</p>
<p>少し長かったかなと思った。 内容について、わかりやすく丁寧に作られていると思った。 他の動画も気になりました。</p>
<p>動画もアンケートも最初からQRコードにしてくださいと簡単なので助かります。</p>
<p>動画形式は時間を選ばず、何度も振り返りできて良い。ありがとうございました。</p>

※こちらの内容は、一部抜粋して掲載しております。